

2021年7月19日

関東・関西・九州ラグビーフットボール協会

理事長 各位

都道府県ラグビーフットボール協会

理事長 各位

世界的試験実施ルール(通達)

(公財)日本ラグビーフットボール協会

(承認済み・押印省略)

専務理事

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通り世界的試験実施ルールに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても、加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

ワールドラグビーEXCO(執行理事会)にて、定款に従い、以下の世界的試験実施ルールを2021年8月1日以降に開始される試合・大会に適用することが承認された:

- **50:22**

ボールを保持しているチームが自陣の内側からボールを蹴って相手陣の22メートルラインより内側で間接的にタッチになった場合、その後のラインアウトではそのチームがボールを投入する。50:22を行うために、ボールを防御側の陣内にパスバック、または、キャリーバックすることはできず、防御側の陣内からフェーズが始まらなければならない。

- **ゴールラインドロップアウト**

インゴールにおいてボールがヘルドアップとなった場合、インゴールにいる攻撃側のプレーヤーによるノックオンがあった、または、攻撃側のキックをディフェンダーが自陣のインゴール内でグラウンディングしたこととなり、ゴールラインに沿った任意の地点からのゴールラインドロップアウトでプレーを再開する。

- **フライングウェッジ**
フライングウェッジの定義を見直し、3名があらかじめバインドしているミニスクラムに対して制裁を科す。
- **単独のプレーヤーによるラッチング**
コンタクトの前に1名だけプレラッチングすることを認めるが、そのプレーヤーはファーストアライビングプレーヤーの要件のすべて（特に立ったままでいること）に従わなければならない。
- **クリーンアウト/ジャッカラーの安全**
下肢を狙った、または、下肢に衝撃を与えるようなクリーンアウトに制裁を科す。

2021年8月1日よりも前に開始されている大会については、当該大会が終了するまで現行の競技規則のもと競技を行うものとする。

各試験実施ルールの詳細、ねらい、該当する競技規則の参照条項、および、映像事例については、以下のリンクを参照（日本語版あり）：

<https://www.world.rugby/the-game/laws/global-law-trials>

（英語で表示された場合、ページ右上のプルダウンメニューで日本語を選択できます）

以上

※本件についてのお問い合わせ先

公財）日本ラグビーフットボール協会

技術部門マッチオフィシャルグループ 競技規則担当

referee@rugby-japan.or.jp